

イン・ハー・シューズ(IN HER SHOES)

2005(平成17)年9月15日鑑賞(試写会・リサイタルホール)

★★★★



監督=カーティス・ハンソン/脚本=スザンナ・グラント/原作=ジェニファー・ウェイナー/出演=キャメロン・ディアス/トニ・コレット/シャーリー・マクレーン/マーク・フオアスタイン/リチャード・バージ/ブルック・スミス/ノーマン・ロイド(20世紀フォックス映画配給/2005年アメリカ映画/131分)

……2人の性格正反対の姉妹が主人公。共通点は、24.5cmという靴のサイズと子供時代の悲しい思い出だけ。30歳前後の女性の生き方が難しいのは当然。仕事オンリーのエリートもしんどいし、ナイスバディで男を引っかけるのもそのうち限界が……？そこに登場するのは、孫たちと長い間隔絶されていたおばあちゃん。男にはわかりにくい『イン・ハー・シューズ (IN HER SHOES)』というタイトルだが、女性のあなたならきつと胸キュンとなるはず……。今年の秋、『シンデレラマン』とともにハリウッド映画ここにあり、という名作の登場だ！アカデミー賞の行方とともに注目しよう。

30歳は女の曲がり角……？

この映画の主人公は、30歳前後の美しい(?)姉妹。妹のマギー(キャメロン・ディアス)は顔だけではなくスタイルも抜群で、男を引っかけるなんてチョロイもの……？しかし実は、しゃべることは自由にできても、まともに本を読むことができない「難読症」という難病を抱えており、本人もそのコンプレックスを十分自覚している。その分を外に発散させているのかもしれないが、いざ放送局の試験を受けるとなれば、姿かたちはオーケーでも、やはり「化けの皮」がはがれてしまうもの……？

他方、姉のローズ(トニ・コレット)はフィラデルフィアの大手法律事務所に勤める弁護士で、地位・収入とも保証されたしっかり者だが、妹と違って太めの体型にコンプレックスを持ち、恋愛も不器用……？いるいる、こういう女……。

私が選ぶなら、さてどっち……？ 基本的には両方とも願ひ下げだが……？

バカな女は気楽か……？

この映画の冒頭は、まず高校の同窓会でしたたかに酔ったマギーが登場。当然(?)挑発的な服を着ているから、酔っばらってフラフラと歩き回る姿や、しどけなく倒れ込む姿は男には魅力的……？ マギーが最初に帰ろうとしたのは、実の父親と義母(継母)のシデルの実家だが、デキの悪い娘に冷たいシデルがこれを追っ払ったため、やむなく姉のローズがマギーに一夜の宿を提供することに……。これだけ見ていると、一見バカな女のマギーは気楽でいいナと思うのだが……？

人生の成功者にもコンプレックスが……？

今やっと上司のジム(リチャード・バージ)との職場恋愛(?)がうまくいきかけているところのローズ。そして、今日はせっかく2人でニヤニヤしていたところ(?)なのに、それをフイにしてまで酔っばらいの妹の面倒を見るのが「しっかり者」の姉のローズ。朝早くから夜遅くまで、弁護士として仕事に奔走し、大手法律事務所の中での信頼も厚いローズだが、実は彼女も女として大きな悩みが……。さて、それは……？

祖母、母、娘の絆とは……？

この映画は、2人の娘が長い間隔絶されていた祖母と出会い、既に死亡した母親の思い出を媒介としてお互いの絆を取り戻していくという物語……。したがって、亡くなった母親の夫、すなわちマギーとローズの実の父親はかなりビミョーな立場。父親は現在はシデルと再婚しているが、この義母のシデルは出来の悪い娘のマギーには当然冷たいものだし、幸せを掴もうとしているローズに対してもかなりイヤらしい対応を……？

①マギーとローズとの姉妹の対立、②マギーと祖母エラとの出会いと対立、そして③ローズとエラとの再会、これらの中で、3人の女性たちは何を語り、どのように自分を確認していくのだろうか……？

かなり複雑な人間関係の歴史やさまざまなこじれを3人の女たちの会話の中で観客に少しずつ理解させていくテクニクは相当なもの……。物語が進行するにつれて、じっくりとその温かみが伝わってくることまちがいなしというものだ。

「IN HER SHOES」とは……？

この映画は、ニコール・キッドマンがアカデミー賞最優秀主演女優賞を獲得した『めぐりあう時間たち』（03年）（『シネマルーム3』88頁）と同じ傾向の、比較的地味な女性映画。もっともこの映画では、バカ女マギーのファッションだけは超ハデな印象を示しているが……？

ローズは収入も相当あると見えて、住んでいる部屋も豪華。そしてそのクローゼットの中には、たくさんの衣装とともにいっぱい靴が……。しかしその多くは、1度も履いたことがないもの。ローズはなぜこんなに履ききれないほどの靴を買い込んでいるの……？

他方、ローズが外出している間に自分に合う靴を求めて次々と試してみても、なかなかホントに合う靴が見つからないマギー。それは一体なぜ……？ ある1足の靴を巡る2人の姉妹の行動が、雄弁に2人の姉妹の気持を語りかけてくれるが、その靴はローズお気に入りのジミー・チューのハイヒール。もちろん私にはそれがどんな靴なのかサッパリわからないが、女性の観客にはその思いが十分わかるはず……？ こんなちょっとニクイ演出に拍手しよう……。

地味なローズが2人の男と……？

地味なローズと派手なマギーだから、登場する男はマギーの相手役と思いがちだが、それは全然見込み違い……。ローズは地味で不器用ながらも、同じ法律事務所の上司のジムとねんごろになっていた。しかしこの2人の仲は、マギーの登場によって何とも決定的な亀裂を生むことに……？ その「悲劇」とは……？ それは映画の中でじっくりと……。

現実に、この「事件」の後、ローズは仕事を辞めて犬の散歩手伝い業（？）という地味な仕事（？）に職種変えることになったし、ローズの部屋から追い出されたマギーは以降連絡が取れないことになってしまったのだから、この「事

件」による亀裂は決定的、だったはず……？

しかし男はいっぱいいるもの……？ 同じ法律事務所の同僚サイモン・スタイン（マーク・フォアスタイン）がローズをじっと見つめていたのだった。当初は半信半疑の中で、サイモンとつき合い始めたローズだったが、サイモンの誠意が理解できるにつれて、2人は遂に婚約まで……。しかしさて、それを「妨害」するものは一体ナニ……？ そしてその結末は……？

マギーのファッションに注目！

自分の肉体的魅力を十分自覚しているマギーだけあって、その服装とおしゃれのセンスは抜群……。とはいっても、それは基本的にスケベな男の目から見てのもの……？ 姉のローズに言わせると、マギーの服装はあまりに挑発的だし、気に入った酒場での男への流し目はそれだけで売春婦そのもの……？

こんなマギーは、ひょんなことで発見した祖母のエラ（シャーリー・マクレーン）からの手紙を頼りに、まだ見ぬこの祖母を訪ねてフロリダへ。エラが生活しているフロリダのリタイアメント・コミュニティとは、すなわち老人ホームのことだが、その中で生活していた大勢の老人とりわけ男たちは、突然現われたマギーにビックリ仰天！ 小さなビキニだけで覆われたナイスボディでプールの周りを歩き回り、ブラをはずして日光浴をするマギーだったが、そのファッションのセンスは、その後意外な方向で生かされることに……？

アカデミー賞有力候補作……？

いよいよ9月17日からは、アカデミー賞有力候補の呼び声が高い『シンデレラマン』が公開される。これはいわば男性版のアカデミー賞候補だが、この『IN HER SHOES』は私に言わせれば、女性版のアカデミー賞有力候補作。『チャーリーズ・エンジェル』（00年）や『チャーリーズ・エンジェル／フルスロットル』（03年）でのキャメロン・ディアスもステキだが、この映画で見せた彼女の演技力は相当評価すべきもの……？ とりわけ、例によって（？）祖母のエラからお金を盗もうとしていたところを発見された後、リタイアメント・コミュニティ内で少しまともに働きはじめたマギーの自己再生の姿は、感動的ともいうべきすば

らしいもの。

本を読んでくれとねだった盲目の教授は、マギーが難読症だと知って、「もう1度ゆっくりと」と温かい言葉を……。詩は心で読むもの……。読み終えたマギーに対してこの教授がかけた言葉とは……？

姉のローズを演じたトニ・コレットの熱演もアカデミー賞助演女優賞に値するものであることもまちがいなし……。そろそろアカデミー賞ノミネートの動向にも要注目だ。

元気なおばあちゃんは日米共通……？

この映画で、エラを演ずるシャーリー・マクレーンは、現在公開中のニコール・キッドマン主演の『奥さまは魔女』(05年)でも、元気なおばあちゃん魔女を演じているが、その映画女優としてのキャリアは半世紀以上に及ぶもの。日本でも黒柳徹子や森光子などの「化け物」とも言うべきおばあちゃんが数名いるが、それはハリウッドでも同じらしい。元気なおばあちゃんは日米共通、ということか？

このシャーリー・マクレーンは、アカデミー賞主演女優賞に5度もノミネートされているが、1983年の『愛と追憶の日々』で最優秀主演女優賞の栄冠を獲得したのは、49歳の時とのこと。さらに彼女は、ゴールデン・グローブ賞にも再三ノミネートされ、4度もその主演女優賞を受賞しているとのことだ。

70歳をこえてなお元気に、ニコール・キッドマンやキャメロン・ディアスと「対等に」共演できるおばあちゃんとは何とも大したもの。まさか、このシャーリー・マクレーンまで、この『IN HER SHOES』で助演女優賞にノミネートされることはないと思うが……？

2005(平成17)年9月17日記